

証券コード：4554

第 **49** 期 報告書

Fuji Pharma **IR** Report

2012年10月1日から2013年9月30日まで

株主・投資家の  
皆様へ



**FujiPharma**



## 経営理念

優れた医薬品を通じて、人々の健やかな生活に貢献する

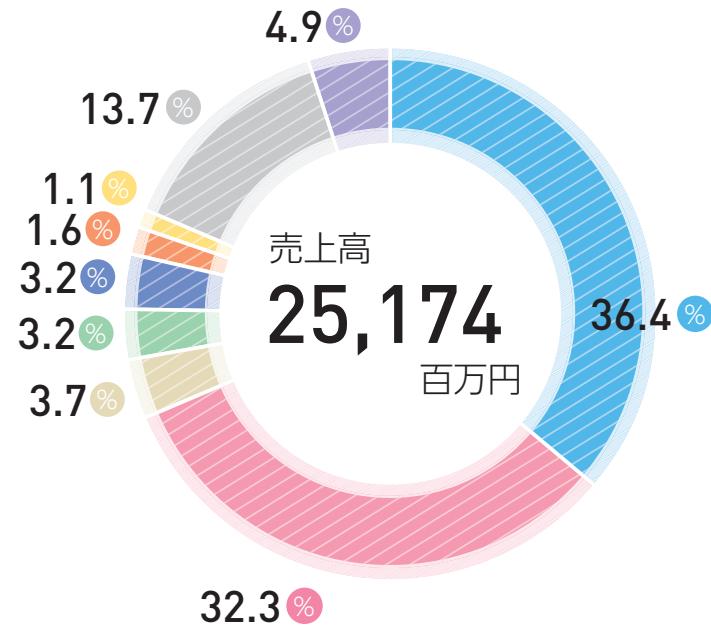
人々の生命に関与する誇り、人々に尽くす喜びと幸せ、  
人々へのありがたい・感謝の気持ちを大切にしています。

富士製薬工業の成長はわたしたちの成長に正比例する

会社活動を通じて、人間的な成長、リーダーの育成、  
自己成長機会の充実に努めています。

当社は、ジェネリック医薬品を中心とした医療用医薬品の開発・製造・販売を行っており「急性期医療」と「女性医療」の分野に注力しております。

- 中長期のビジョンとして、急性期医療事業の拡大、女性医療のリーディング・カンパニーの実現、
- 研究開発を軸とした事業体制の構築、海外での事業展開などを目指しております。



### 医薬品の製品群別売上高

- 診断用薬
- ホルモン剤
- 循環器官用薬
- 体外診断用医薬品
- 抗生物質及び化学療法剤
- 泌尿・生殖器官系用薬
- 外皮用薬
- その他
- CMO事業 (OLIC社)

## 急性期医療分野

急性期とは、主に病気のなり始めで急激に健康が失われる時期、つまり症状の比較的激しい時期を指します。この時に行う医療措置が急性期医療で、当社が特化している事業分野であり、医療領域別売上高構成比は55.8%を占めます。注射剤をメインとした製品構成となっており、主力製品はX線・CT画像撮影に必要な尿路・血管造影剤です。



## 女性医療分野

産婦人科領域を中心とする女性医療は、当社が古くから注力している事業分野であり、医療領域別売上高構成比は31.7%を占めます。排卵障害や体外受精のための排卵誘発に使用される不妊治療ホルモン剤やホルモン診断キット、感染症診断キットなどをお届けしております。女性のこころとからだをトータルサポートするべく、これからも医薬品の開発・製造・安定供給に尽くし、女性医療分野のリーディング・カンパニーを目指してまいります。

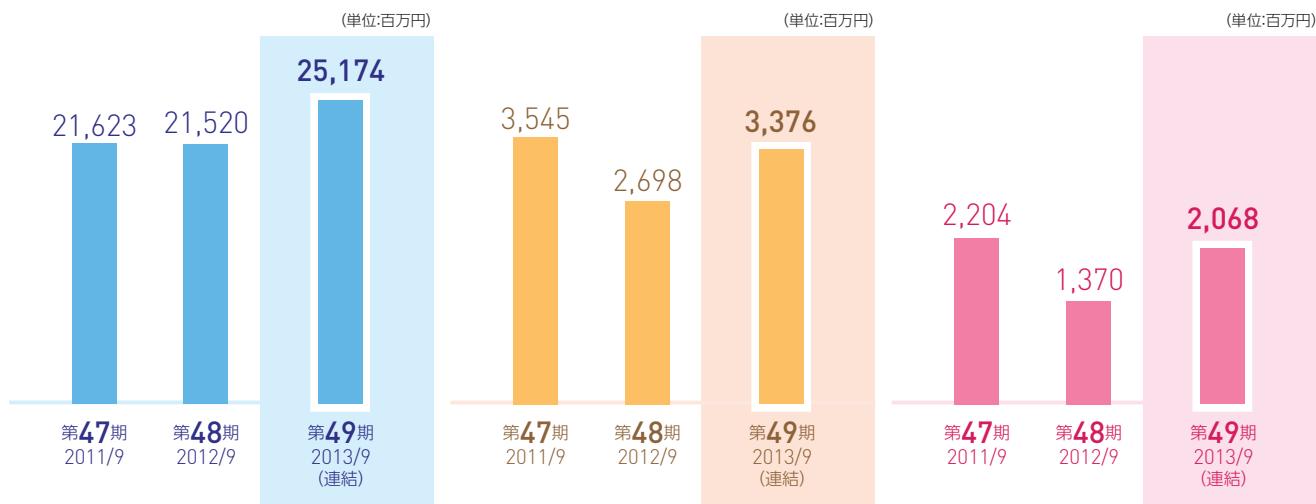


2012年10月1日付で、OLIC (Thailand) Limited (以下、OLIC社) がグループ入りし、当期より連結決算となりました。

売上高  
25,174百万円

経常利益  
3,376百万円

当期純利益  
2,068百万円



### 売上高について

主力品目である尿路・血管造影剤「オイパロミン」・「イオパーク」を中心とする診断用薬が91億5千8百万円となり、月経困難症治療剤「ルナベル®配合錠LD」、子宮内膜症治療薬「ブセレキュア」、不妊症治療薬「HMG筋注用」・「フォリルモンP注」などを中心とするホルモン剤が81億3千4百万円となるなど、主力品が比較的順調に推移しました。

### 収益について

売上高の比較的順調な推移等により、経常利益は33億7千6百万円となり、当期純利益は20億6千8百万円となりました。

※当期は、OLIC (Thailand) Limitedの数値が含まれております。なお、第47期と第48期については、当社単体の数値です。

## 研究開発費/設備投資額



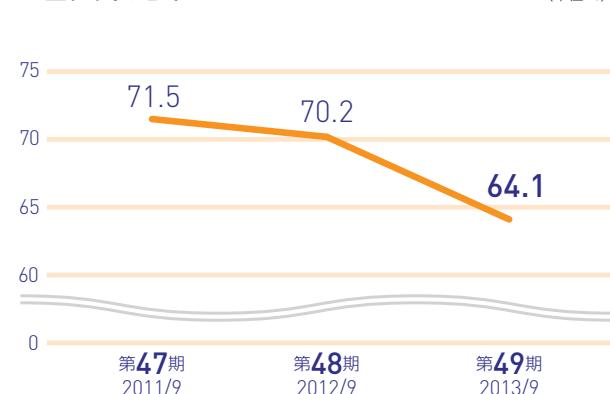
女性ホルモン剤、抗がん剤、バイオ後続品などの研究開発を推進し、**研究開発費として、12億8千万円を計上いたしました**。また、新注射剤工場(第5製剤棟)の第Ⅱ期工事、富山研究開発センター建設工事を中心に、**総額31億6千7百万円の設備投資を行いました**。

## ROA/ROE (単体)



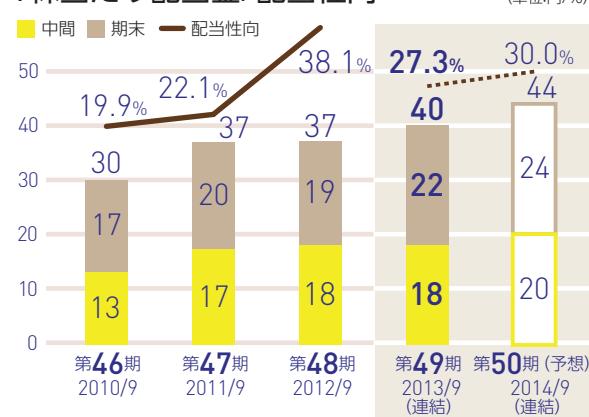
利益が回復したことにより、ROA/ROEともに良化しております。**連結では、ROA8.6%、ROE8.6%となりました**。

## 自己資本比率 (単体)



設備投資やOLIC社のグループ入り等により、有利子負債が増加し、自己資本比率は、**64.1%となりました**。なお、**連結での自己資本比率は、61.5%です**。

## 1株当たり配当金/配当性向



当期は、**年間40円/株(中間18円/株、期末22円/株)となり、連結配当性向は27.3%となりました**。次期は、業績予想や今後の事業展開等を総合的に勘案し、**年間44円(中間配当金20円、期末配当金24円)を予定しております**。



2015年4月、当社は設立50周年を迎えます。  
51年目以降の成長を支える事業基盤構築に向け、  
最終準備段階に入りました。

代表取締役社長  
**今井博文**

**Q: 市場環境と当期(2013年9月期)の業績概要についてお聞かせください。**

**A: 主力の造影剤、ホルモン剤が伸長し、対前期比で増収・増益となりました。**

今年4月、厚生労働省より、「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」が公表され、2018年3月末までに、ジェネリック医薬品の数量シェアを60%以上にするとの普及拡大のための指針が改めて出されるなど、追い風は吹いてはいるものの、ジェネリック医薬品の市場規模は、2012年度で数量シェア25.8%と、あまり拡大していません。一方で、今後の市場拡大を見込み、国内外の大手新薬メーカー数社が、ジェネリック医薬品事業に積極的に取り組んでおり、中期的に競争が益々厳しくなることが予想されます。

このような環境下、当社は注力分野をさらに強化し、主力の急性期医療向け診断用薬の造影剤、女性医療向けホルモン剤がともに伸長し、対前期比で増収・増益となりました。

**Q: 急性期医療、女性医療の領域における当期の主な取り組みを教えてください。**

**A: 両領域ともに、より難しい開発にチャレンジし、将来に向けての布石を打ちました。**

当社は現在、中期ビジョン「2015年のあるべき姿」のもと、「既存コア事業の拡大と次の時代につなぐ新規事業機会の具体化の実現」に取り組んでおります。急性期医療領域では、5月にバイオ後続品のG-CSF製剤\*を発売し、オンコロジー(腫瘍学)の専任チームを中心に、血液内科をはじめ、全診療科への営業活動を開始いたしました。従来は、放射線科向けにがん診断薬として造影剤の営業を行ってききましたが、これにがん治療薬の現場が加わりました。

ジェネリック薬とブランド薬のシナジーモデルを構築し、全ホルモン療法のサポートを目指す女性医療領域では、9月から超低用量のエチニルエストラジオール(EE)を含む月経困難症治療剤「ルベナル®配合錠ULD」販売を開始いたしました。現在、ホルモン剤事業に大きく寄与している従来品の「ルベナル®配合錠LD」ともども、今後が

期待されます。また今年の12月には、塩野義製薬株式会社から当社が保有する4製品の製造販売承認を承継及び販売移管を行うなど、産科・婦人科領域の製品の拡充を行いました。

\*G-CSF製剤: 血液中の好中球の産生や機能性を高める生物活性等を持ち、がん化学療法による好中球減少症の治療などに利用される生理活性蛋白質です。

**Q: 中期ビジョンの最終年度である次期(2014年9月期)の活動をお聞かせください。**

**A: 抗がん剤等の注射剤製造やタイ子会社の本格立ち上げなど、事業基盤構築を加速します。**

中期ビジョンの最終年度となる次期は、抗がん剤等の注射剤の新製造ラインを立上げ中の新注射剤棟が2014年4月より本格稼働いたします。新ラインは、“より高度な無菌性保証”を可能とする設備を導入し、欧米の最新の考え方を取り入れた三極(日本・米国・欧州)GMP\*モデルのグローバル対応を実現しました。このラインで、今後は抗がん剤の凍結乾燥製剤の受託製造という新たな事業にも取り組んでまいります。

女性医療領域では、「ルベナル®配合錠ULD」の販売を本格化する一方、引き続き長期収載のブランド医薬品の承継などを進めてまいります。

海外では、昨年10月にグループ入りしたタイ最大の医薬品製造受託メーカーであるOLIC (Thailand) Limited (以下、OLIC社)を通じた事業を本格化いたします。OLIC

2014年9月期 連結業績予想		
売上高	29,465 百万円	(前期比 17.0%増)
営業利益	3,450 百万円	(前期比 5.8%増)
経常利益	3,385 百万円	(前期比 0.3%増)
当期純利益	2,070 百万円	(前期比 0.1%増)

社では従来、主に経口剤や外用剤の生産を行ってききましたが、今後は日本の製造技術やノウハウを移管し、東南アジアにおける注射剤の主力工場にしていく構想です。

\*GMP: 「医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準に関する省令」という法令があり、医薬品の製造をする者が守るべき内容を定めたものです。この「医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準」を指して「GMP (Good Manufacturing Practice)」と略称しています。

**Q: 株主・投資家の皆様へメッセージをお願いします。**

**A: 設立50周年以降を見据え、次期成長に挑戦する当社グループをよろしくご支援ください。**

当社は、ジェネリック医薬品市場において、得意とする領域の事業基盤を構築してまいりましたが、次期成長は、さらに付加価値の高い製剤を積極的に加えることで実現したいと考えております。このため、バイオ後続品やDDS\*1、D&D\*2といった新たな技術基盤での開発を強化しており、来年は、協業先のテルモ(株)社の容器と組み合わせたD&D製剤などを発売する計画です。DDSジェネリック製剤についても開発を進めており、2016年以降の成果につなげたいと考えております。

さらに、このような取り組みを通じ、収益性を引き上げつつ、来期以降は配当性向を30%以上に引き上げる計画です。株主・投資家の皆様におかれましては、新たな事業基盤の構築に挑戦する当社を引き続きご支援のほど、よろしくごお願い申し上げます。

\*1 DDS: Drug Delivery Systemの略で、必要な薬物を必要な時間に体内の必要な部位で作用させるための製剤技術の総称です。当社では、特に持続的に薬物を放出する除放射性注射剤を開発に取り組んでおります。  
\*2 D&D: Drug&Deviceの略で、医薬品と医療器具(容器等)を融合させた付加価値のある医薬品開発を目指しております。



## 連結貸借対照表

（単位：百万円）

	当 期 2013年9月30日現在	〈ご参考〉 前 期 2012年9月30日現在
(資産の部)		
流動資産	23,772	22,828
現金及び預金	6,015	5,170
受取手形及び売掛金	9,697	9,640
たな卸資産	6,537	6,610
その他	1,521	1,406
固定資産	15,366	8,642
有形固定資産	10,506	7,242
無形固定資産	4,105	718
投資その他の資産	753	682
資産合計	39,138	31,471
(負債の部)		
流動負債	8,917	8,034
固定負債	6,153	1,338
負債合計	15,071	9,373
(純資産の部)		
株主資本	23,644	22,098
資本金	2,447	2,447
資本剰余金	3,672	3,672
利益剰余金	17,525	15,979
自己株式	△ 0	△ 0
評価・換算差額等	—	△ 0
その他の包括利益累計額	421	—
少数株主持分	0	—
純資産合計	24,066	22,098
負債純資産合計	39,138	31,471

※当期より連結財務諸表を作成しております。

## 連結損益計算書

（単位：百万円）

	当 期 2012年10月1日から 2013年9月30日まで	〈ご参考〉 前 期 2011年10月1日から 2012年9月30日まで
売上高	25,174	21,520
売上原価	14,233	12,202
売上総利益	10,941	9,318
販売費及び一般管理費	7,679	6,571
営業利益	3,261	2,746
営業外収益	175	31
営業外費用	61	79
経常利益	3,376	2,698
特別利益	39	79
特別損失	82	452
税引前当期純利益	—	2,325
税金等調整前当期純利益	3,332	—
法人税、住民税及び事業税	1,379	1,028
法人税等調整額	△ 115	△ 73
少数株主損益調整前当期純利益	2,068	—
少数株主利益	0	—
当期純利益	2,068	1,370

## 連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	当 期 2012年10月1日から 2013年9月30日まで	〈ご参考〉 前 期 2011年10月1日から 2012年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,630	1,171
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,601	80
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,743	△ 835
現金及び現金同等物に係る換算差額	71	—
現金及び現金同等物の増減額	844	415
現金及び現金同等物の期首残高	5,676	5,260
現金及び現金同等物の期末残高	6,521	5,676

詳細な財務情報は、  
当社ホームページ 株主・投資家情報の  
IRライブラリをご覧ください。

富士製薬工業IR

検索

アドレスはこちら▼

<http://www.fujipharma.jp/ir/library/index.html>

## 月経困難症治療剤「ルナベル®配合錠ULD」の販売開始

「ルナベル®配合錠ULD」は、ノーベルファーマ(株)が開発し、月経困難症の適応を取得した女性ホルモン剤で、国内で最低用量のエチニルエストラジオール(EE)を含量しています。ノルエステロン 1mg/EE 0.02mgの用量で月経困難症治療剤として承認された薬剤は世界初で、重篤な副作用の発現をさらに低減することを目的として開発されました。

当社では、同じく女性ホルモン剤として「ルナベル®配合錠LD」(ノルエステロン1mg/EE 0.035mg)を販売しておりますが、これに新治療剤を加えることで、治療現場に月経困難症治療の新たな選択肢を提供し、患者様のQOL(Quality of Life:生活の質)向上に貢献してまいります。



「ルナベル® 配合錠ULD」

## 非イオン性造影剤「オプチレイ®注」の販売移管について

当社は、Mallinckrodt Plc(本社:アイルランド/以下、マリックロット社)のグループ会社であるマリックロットジャパン社が保有する非イオン性造影剤「オプチレイ®注」(イオベルソール注射液)の国内独占販売権の移管を受け、12月より販売を開始しております。マリックロット社が開発した「オプチレイ®注」は、1989年に米国で発売され、現在、世界50カ国以上で承認・販売されています。日本では1992年にマリックロットメディカル社(現マリックロットジャパン社)が製造販売承認を取得し、販売を開始いたしました。

急性期医療領域において、「オイパロミン®注」(イオパミドール注射液)と「イオパーク®注」(イオヘキソール注射液)に当製品が加わることで、より多くの患者様に貢献できるものと期待しております。



「オプチレイ®注」

## 製造販売承認の承継及び販売移管について

当社は、12月1日付で、塩野義製薬(株)より、同社が保有する4製品について、製造販売承認の承継及び販売移管を受け、同日以降、当社が適正使用情報等の提供、安全性情報の収集・伝達及び製品の販売(医薬品卸への供給・流通)を行うことになりました。製造販売承認の承継品目としましては、ルトラール®錠2mgとフラジール®腔錠250mgの2品目、販売移管品目としましては、ノアルテン®錠(5mg)とクロミッド®錠50mgの2品目で、いずれも12月より販売を開始しております。

今回の製造販売承認の承継及び販売移管により、産科・婦人科領域において、製品ラインアップを一層拡充できますことから、産科・婦人科領域においても、より多くの患者様に貢献できるものと期待しております。

# OLIC (Thailand) Limited REPORT



OLIC (Thailand) Limited



当社グループは、中期ビジョン「2015年のあるべき姿」の一つに、「海外での事業展開」を掲げておりますが、その戦略的施策として、2012年10月にタイの医薬品受託製造メーカー最大手であるOLIC (Thailand) Limited (以下、OLIC社)を子会社化いたしました。

OLIC社は、スイスの大手商社DKSH社のグループ会社であったため、品質を含む製造やマネジメントの面で、欧米基準を確立しております。また、英語による取引ができることなどから、欧米の大手製薬会社を中心に、35社以上の世界各国の企業から絶大な支持を得ております。加えて、日本の医薬品メーカーによる東南アジアでの市場開拓が本格化し始めたことや当社の子会社となったことなどから、日本国内の医薬品メーカーからの製造依頼の案件も増えてきております。



従業員の約7割が女性従業員です。

また、タイでは注射剤の製造を行っている製薬メーカーが少ないため、当社が得意とする注射剤の生産ノウハウを

OLIC社に移管することで製造受託事業の更なる拡大が見込まれます。現在、同じ敷地内に注射剤の大量生産工場を新設するべく、建設計画を検討中です。数年後には日本の品質基準を有したコスト競争力のある量産拠点を実現してまいります。同工場では、富士製薬工業製品の日本向け輸出のみならず、富士製薬工業ブランドの注射剤を東南アジアで展開する計画です。



OLIC社  
Managing Director 上出 豊幸氏

国内の富山工場ではバイオ医薬品や抗がん剤などの特殊で付加価値の高い医薬品を製造してまいります。このように、富士製薬工業グループとして富山とタイでの製造機能の棲み分けを行い、あらゆるニーズに対応できる体制を構築してまいります。

タイ進出をきっかけに生産力を向上させ、そしてグローバルな製品展開の実現を積極的に進めてまいります。



## 中期ビジョンの最終年度である次期(2014年9月期)を迎えるにあたり、次期成長を牽引する研究開発の現場をご案内いたします。

### 研究開発の現場より

当社グループでは、来期を最終年度とする中期ビジョン「2015年のあるべき姿」の仕上げと、当社設立50周年以降の次期成長に向けて、新たな技術基盤による開発計画を策定し、順次患者様にお届け出来るよう、引き続き努力しております。ここに、その進捗と今後の方向性をご報告いたします。

#### 1 抗がん剤の開発推進について

抗がん剤などの毒性の高い医薬品が取り扱える富山研究開発センターと新注射剤棟が富山工場で稼働したことから、自社開発による、製剤開発から製造までの一貫した研究開発体制をフル活用し、抗がん剤ジェネリック医薬品の開発を強力に推進してまいります。

#### 2 バイオ後続品について



フィルグラスチム製剤のバイオ後続品として日本で初めて承認された、遺伝子組換えヒト顆粒球コロニー形成刺激因子(G-CSF)製剤「フィルグラスチムBS注シリンジ『F』」は、2013年5月から発売を開始いたしました。この経験を生かし、引き続き各種のバイオ後続品の開発を拡大化してまいります。当社が重点を置く女性医療の生殖補助医療(ART)\*において使用されるバイオ医薬品と、抗がん剤領域で使用されているバイオ医薬品をターゲットにして開発に注力してまいります。

#### 3 新薬について

2013年9月発売の月経困難症治療剤の新薬「ルナベル®配合錠ULD」に続き、医療現場で必要とされている「プロゲステロン製剤」の臨床試験を開始いたしました。これはART\*に使用される新薬で、早期に医療現場にご提供できるよう、開発に取り組んでまいります。

#### 4 ニーズの追求

お客様のニーズに応えるため、研究開発スタッフが医療現場を訪れ、ドクターや薬剤師の方々のご意見を直接伺うことで、今後の開発に役立つご意見が多く得られました。富山研究開発センターでは、現場調査で得た情報をもとに、ニーズにマッチした開発品を生み出してまいります。



富山研究開発センター



「フィルグラスチムBS注シリンジ『F』」

#### 用語解説

※生殖補助医療(ART): Assisted Reproductive Technologiesの略で、難治性不妊症に対する不妊治療の総称です。体外受精・胚移植・顕微授精などをいいます。

## 会社概要 | 2013年9月30日現在 |

会社名 富士製薬工業株式会社 (Fuji Pharma Co., Ltd.)  
 所在地 〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7  
 設立 1965年4月  
 資本金 24億4,741万円  
 社員数 連結：1,450名 (富士製薬：619名 OLIC：831名)  
 事業所 本社：東京  
 支店：東京、名古屋、大阪、福岡  
 営業所：札幌、仙台、富山  
 工場：富山  
 研究所：富山研究開発センター

海外グループ会社 OLIC (Thailand) Limited  
<http://www.olic-thailand.com/>

役員 (2013年12月20日現在)

代表取締役社長	今井博文
常務取締役	広見 覚
取締役	上出 豊幸
取締役	三橋 厚弥
取締役	平山 健之
取締役	小澤 雅之
取締役	宇佐見 卓也
取締役(社外)	小沢 伊弘
取締役(社外)	内田 正行
常勤監査役	徳永 賢一
監査役(社外)	三村 藤明
監査役(社外)	佐藤 明

## 株式の状況 | 2013年9月30日現在 |

発行可能株式総数 28,220,000株  
 発行済株式総数 14,120,000株  
 株主数 4,373名  
 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
有限会社F J P	2,141,000	15.16
今井 博文	2,025,000	14.34
三井物産株式会社	1,930,600	13.67
テルモ株式会社	643,500	4.56
新井 規子	620,000	4.39
BBH BOSTON-HEARTLAND VALUE FUND	500,000	3.54
今井 道子	423,000	3.00
RBC IST LONDON-CLIENTS ACCOUNT	325,700	2.31
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	270,400	1.92
富士製薬工業従業員持株会	222,490	1.58

(注) 持株比率は自己株式(67株)を控除して計算しております。

**株主メモ**

事業年度 毎年10月1日から翌年9月30日まで  
 定時株主総会 毎年12月開催  
 基準日 定時株主総会 毎年9月30日  
 期末配当金 毎年9月30日  
 中間配当金 毎年3月31日  
 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日  
 日本経済新聞

公告掲載新聞 日本経済新聞

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 (電話 照会先) ☎ 0120-782-031  
 (インターネットホームページ URL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

上場証券取引所 株式会社東京証券取引所 市場第一部

### ●第49期期末配当金のお支払いについて

第49期期末配当金は、同封の「第49期期末配当金領収証」によりお支払いいたしますので、お近くのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)で払渡期間内(2013年12月24日から2014年1月24日まで)にお受け取りください。なお、銀行預金口座への振込をご指定の方には、「配当金計算書」及び「お振込先について」を、株式数比例配分方式をご指定の方には「配当金計算書」及び「配当金のお受け取り方法について」を同封いたしますので、ご確認くださいませようお申し込み申し上げます(株式数比例配分方式を選択された場合の配当金のお振込先につきましては、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください)。

### ●上場株式配当等のお支払いに関する通知書について

租税特別措置法の2008年改正(2008年4月30日法律第23号)により、当社がお支払いする配当金について、配当金額や徴収税額等を記載した「支払通知書」を株主様宛にお送りしております(同封の「配当金計算書」が、「支払通知書」を兼ねることになります)。なお、「支払通知書」は、株主様が確定申告をする際の添付資料としてご使用いただくことができます(株式数比例配分方式を選択されている場合は、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください)。



富士製薬工業株式会社 Fuji Pharma Co., Ltd.

■ IRに関するお問い合わせ

本社/管理部 〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7 精糖会館6F  
 TEL : 03-3556-3344 FAX : 03-3556-4455

URL : <http://www.fujipharma.jp/>

